

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区千田18-8
施設名	AIAI NURSERY千田

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

表現

〈テーマの設定理由〉

子どもたちが興味関心がある素材に触れ、身振りや言葉で感じたことを表現し、保育者や友だちと共有し合っているため。

2 活動スケジュール

クラスで食育の一環として、毎月、季節の野菜や献立にある食材を使って食育計画を立ててその都度振り返りを行う。出張さつまいも掘りでは、全クラス行き、乳児クラスでは蒸した芋と生の芋の輪切りを観察して、蒸した芋を試食したり幼児クラスでは葉や蔓を素材として製作にしたり、クッキングで調理して素材を生かした活動計画を実施した。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

季節野菜・果物及び出張収穫体験・寒天・小麦粉  
・大豆/保育室内にて実施、調理員も参加し、絵本などからの興味ある導入より、食材に触れてみる。必要に応じて、タオル・タライや着替えの準備を行なった。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

10月 小麦粉粘土 粉から粘土に変わる感触体験  
11月 季節の摘み取り体験（さつまいも）大きさや重さの体験、土の感触  
12月 寒天遊び（型抜き、食具）形の認識、食具を使ってすくう体験  
1月 冬野菜に触れる（人参、ごぼう、大根）手触り、葉付きの感触体験  
2月 マカロニきな粉まぶしクッキング（大豆を知り、きな粉になる工程を知る）袋の中できな粉をまぶしてみる  
3月 柑橘類の皮むき体験（グレープフルーツ、オレンジ）皮むき、柑橘類の違いを比べる

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

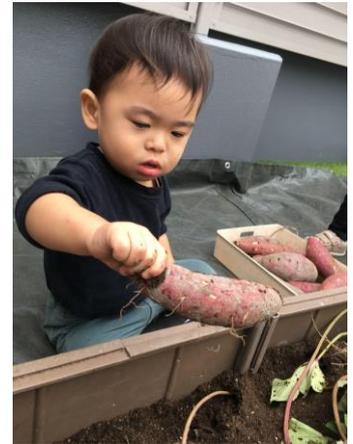
様々な素材に触れることで、小麦粉粘土で粉から丸へと成型される過程を保育者と体験し、途中ベタつく手先が気になり困った表情をしていた子も、保育者と一緒に捏ねていくうちに形になるとちぎったり、丸めることができる様になり手先の発達が促された。様々な素材に触れ、言葉で自分の気持ちを伝えられる様になると、（ごぼうに触れると）「ながい」、（さつま芋掘りで大小の芋を取ると）「大きいね」、（寒天で型抜きをすると）丸の形を見て「まる」と保育者と共に感じたことを言葉で表現していた。保育者が活動を行う前の絵本等で目で見えたイメージや表現を先に知っておくことにより、さらに活動へと興味関心が増していた。

b

## 【小麦粉粘土】



## 【さつま芋掘り】



## 【寒天遊び】



## 5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

初回では、食材を初めて見るので、なんだろうと不思議そうに見ていたり、戸惑う子がいたが保育者が先に触れることで安心して触れることができた。給食に入っている食材を食育にすることで、活動から食べるころまで体験するとより苦手な野菜類も克服へと繋げることができた。土の中から出てくるさつま芋、葉付きの野菜、冷たい/柔らかい感覚、各月毎に食育計画を立てて実施することでその都度振り返りを行い、子どもたちの興味に添った活動ができた。畑が近隣にないために、生の野菜を見ると興味を持って触れようとして、土の匂い、感触等感じることもできた。活動を実施する上で職員間で打ち合わせを念入りに行い、環境を工夫することで、存分に楽しむことができた。成長の中で、活動を考え子どもたちの主体性を活かした内容だったために引き続き週案の活動と共に充実させていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区千田
施設名	AIAINURSERY千田

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然（食育）

〈テーマの設定理由〉

子どもたちが室内や戸外での遊びの中で、玩具や自然物を食べ物に見立てて遊ぶ姿が多く見られ、食に関する興味関心が高かったため。

2 活動スケジュール

室内遊びや戸外遊びにて子どもたちの遊びの様子を観察、また言葉に耳を傾け、その様子を踏まえ興味関心にあった食育(新たな発見に繋がるよう)を考える。食育活動を設定し、実施、活動中の子どもの様子をドキュメント化する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

おままごと、粘土、絵本紙芝居等。自然物が多い公園へ出かける。子どもの関心にあった給食、おやつ献立選び。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

9月：いろいろな食べ物に興味を持とう。10月：いろいろな物でいろいろな食べ物を作ってみよう。11月：クッキーの型抜きに挑戦。月：ケーキの飾りつけをしてみよう。1月：おにぎりを握ってみよう。2月：乾物の変化を観察しよう。3月：パンケーキを作ろう。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

自然物や自分の体が様々な食べ物に見立て、遊びが展開されていった。そこに保育者が声を掛けることで、関心が広がっていく姿が見られた。また、食に関する絵本や紙芝居を集中して見たり、その物に変化していく様を興味深々で見ている姿もあった。



## 5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもが興味があることに、保育者(大人)が環境を設定することで、大人たちが気付かないような発見が得られ、そこからまた違う興味関心が次々と生まれる。何気ないことでも子どもの視点から見ると大きな発見であり、また大人が共感することで、子どもの世界が広がっていく。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区千田
施設名	AIAINURSERY千田

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

表現（色・形）

〈テーマの設定理由〉

子どもたちの会話の中で虹に興味を持ち、色や形の話がよく出てきた。形や色に興味を持つ姿が見られ探究活動を始める姿があった。それからテーマを探究に設定し、それらを高めるための導入及び色・形への興味を体感プログラムの導入素材の一つとしてBreak it KidsやIQパズルを使用し、子どもの自由意思に沿って実施。IQパズルや形の活動の中で室内環境をデザインする中にIQパズルの形に関するテキスト教材（積み木、図形プレートなど）を常に遊べるように設置し子どもたちが非同期的に形に興味関心を持ち探究する力を深め、養うようにするために使用している。その経験を通して自分で選択したり仮説を立て行動に移しどんな結果でも認められる経験を後押ししたい為。

2 活動スケジュール

毎月色や形に関する製作や遊びなど子どもたちの声を拾いながら活動を実施。自由に材料や素材を選択できるようにしたり、季節の行事に主体的に活動に参加をしたりしながら関心を持てるように環境設定を行った。

例：①絵本を通してクリスマスオーナメントに関心を持っていたため、絵の具や紙粘土を使ってオーナメント製作を実施。

②発表会で歌う「そらにらくがきかきたいな」を通して「そらにらくがきをしたい」という声から屋上で実際に実施。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

クレヨンや油性ペン、色鉛筆、絵の具、図形プレート、紐通しなどの絵画素材・玩具を子どもたちが安全な環境の中で自由に手に取れる環境に設置し、日頃から色や形への興味関心を高められるようにした。行事での衣装づくりをするために染料を用意したり、オーナメント、だるまづくりなどをするために紙粘土やだるまを用紙したりして色を塗る、混ぜる、様々な素材に触れるなどといった目的を達成できるようにした。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

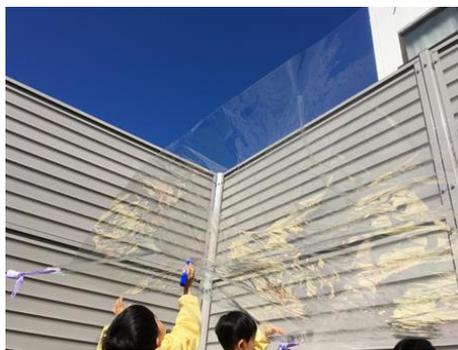
【色】 7・8月：プールでの虹づくり 9月：絵の具を用いた色混ぜ遊び 10月：自然の中の色を探そう 11月：染料を使って運動会の衣装をつくろう 12月：クリスマスのオーナメントづくり 1月：正月伝承遊び（張り子、織り染め） 2月：そらにらくがきをしよう 3月：玩具づくり 【形】 7月から3月：形遊び 図形プレート 紐遠し 形探し等（自由遊び）

### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

色鉛筆、クレヨン、絵の具などに使い慣れていく中で使い方を学びながら、自由に参加し色への関心が、制作意欲や塗り絵、子どもたちの発見や気づきに繋がっていった。また、季節の行事への関心が高まり「こんなことがしたい、〇〇が必要」などといった友達と協力しながら創意工夫をする様子が見られ始め、年度末の発表会では色をテーマに設定し、道具などの作成においてどの部分にどのような工夫ができるか保育者を交えて意見を伝え合い、劇遊びに繋がっていった。

#### 〈表現（色・形）

#### 色遊び



#### 形遊び



## 5 振り返り

### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

幼児クラスになり自分たちで工作をする、様々な材料を使って遊びに発展させるといった関心が高くなっていき、そうした子どもたちの興味関心に沿ったテーマを設定することで、主体的な活動の中で友達同士で認め合う、自分の気づきを他者に伝えるなど人間関係においても成長が見られた。また、見本や正解がないことでより、選択できる環境となり、自分のアイデアを活かし創意工夫することに繋がった。今後も子どもたちに選択できる環境の中でも「遊び込める」ことに向き合い、必要な環境を整えながら子どもの主体性を伸ばしていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区千田
施設名	AIAINURSERY千田

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然

〈テーマの設定理由〉

製作意欲が高いクラスの為、物作りを通して、資源の大切さ、その利用方法について実際に体験しながらSDGsとは何かを子どもたちが主体となって知り、自分なりの意見や人に伝える力に繋げていってほしいと考えたため。

2 活動スケジュール

2024年度9月より開始。夏祭りの装飾や運動会で使用するものを各ご家庭から持ってきてもらい、集めた様々な素材で製作。行事への取り組みと並行して行う。（夏祭り、運動会、クリスマス会、生活発表会全4回）  
また、上記の取り組みと並行して1週間に一度サークルタイムを設け、子どもたち同士で気になったことなどを伝え合う機会をつくり、そこから出た意見や疑問などを活動に繋げていく。  
10月に行った秋の遠足に関してはSDGsにも絡めて、日本科学未来館にも見学へ行った。そこで、実際に数位の上昇を投影した映像と自分たちの姿を重ね合わせて鑑賞したり、未来の食卓を見学することが出来た。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ご家庭から不要になった布を衣装にするため、ミシンを購入。職員が見本を見せながら4歳児の子どもたちもミシンを使用した。また、廃材を再利用するために絵の具の水受けや筆を乾かすスタンドを購入し、子どもたちがスムーズ且つ豊かな表現を実現するための環境を整えた。

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

7～9月温暖化を実際に体験する(氷に触れる)  
10月未来の地球を知る(遠足：日本科学未来館)  
11月生命の誕生とジェンダー平等を考える(赤ちゃんが生まれる瞬間：動画視聴)  
12月リサイクルの意味を考える(全家庭より廃材を募集。再利用して運動会の衣装へ)  
1月海の豊かさを守る・リサイクルをする(いらぬ不織布とミシンを使って再利用を学ぶ)  
2月非言語に触れ、豊かな経験を全ての人へ(みんなのコンサート実施)  
3月魚を守るためにできることをやってみる(ごみ収集・プラスチックの再利用・ポスター掲示)

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・SDGsのマークをクラス内に常に掲示すると、ご家庭でもマークを見つけるなど気付くようになり、保護者からもその気づきを保育者に伝えるなど子ども、保護者相互のコミュニケーションが豊かになった。
- ・資源の大切さを伝えてきたことで、生活の中で出てきたゴミも「これ使えるかも」と自ら工作をして再利用する意識が芽生えた。
- ・ミシン購入後、縫い方を伝えていると自分の洋服の仕組みを考えたり、作る難しさを痛感していた。
- ・ジェンダー平等について知ることと同時に男女の身体の違いやパーソナルスペースについて学んだ。



## 5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・興味関心の種を室内掲示や活動の中で撒いて置くことで、子どもたちの行動力が上がっていくことが感じられた。また、保護者にもその活動の内容や子どもたちの様子、上手くいかなかったことなどを伝えることで、ご家庭でのコミュニケーションが広がり、より自演の保育やクラスの取り組みに対する理解度、協力が高まった。
- ・サークルタイムの中で子どもたちが話し合う際に、意図としない方向で話が進んでいくことが多くあったが、保育者はあくまでオブザーバーとして見守ることで、子どもたちなりの考えやアイデアが生まれていた。